

令和4年度第1回館林市子ども・子育て会議 議事録【概要】

1 日 時 令和4年9月21日（水）午後3時～午後4時30分

2 場 所 館林市役所501AB会議室

3 出席者

【館林市子ども・子育て会議委員】 15名

森会長、坂本副会長、津久井委員、角田委員、大野委員、三田委員、平田委員、山本委員、原委員、鎌田委員、小暮委員、饗庭委員、田端委員、荒木委員、平林委員
（以上名簿順）

【市】16名

こども局 : 松村局長

健康推進課 : 野澤課長、島田母子保健係長

子育て支援課 : 奥澤課長、妻神こども相談係長、石田

こども課 : 木村課長、浅海幼保運営係長、前原幼保支援係長、石井係長代理
熊田児童センター長

教育総務課 : 武井課長、折原総括係長

生涯学習課 : 廣澤課長、石井青少年係長

学校教育課 : 井戸課長

【傍聴者】 なし

4 議 題

(1) 副会長の選出について

(2) 館林市子ども・子育て支援事業計画

令和3年度実績および令和4、5、6年度中間見直しについて

(3) 令和5年度教育・保育施設の利用定員について

(4) その他

5 配布資料

・会議次第

・委員名簿

・資料1 館林市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて

・資料2 第2期館林市子ども・子育て支援事業計画

令和3年度実績及び中間見直しについて

・資料3 令和5年度教育・保育施設の利用定員について

・館林市子ども・子育て会議条例

6 会議内容

(1) 開 会

(2) あいさつ（会長）

(3) 自己紹介

・名簿順に委員から自己紹介

(4) 議 事

ア 副会長の選出について

委員より前任の副会長同様、館林市区長協議会理事の坂本委員にとの案が提示され、全会一致で承認された。

イ 館林市子ども・子育て支援事業計画

令和3年度実績および令和4、5、6年度中間見直しについて

- ・全体の説明後、関係各課より各事業について概要、実績、見直しを説明：

国の基本指針により、本市においても中間年にあたる令和4年度に計画の見直しを行った。現在コロナ禍であるため、施設整備の進捗状況や事業の実施状況・利用状況等について検討した。「教育・保育施設」について、令和5年度からの公立幼稚園の認定こども園化に向けて確保方策の計画を見直した。「地域子ども・子育て支援事業」については、施設整備状況・実績状況により確保方策の計画を見直した。

ウ 令和5年度教育・保育施設の利用定員について

- ・関係課より説明：

令和5年度より3施設が認定こども園化されることによる、利用定員の設定について説明。北こども園については120人、東こども園は50人、AOYAGIについては220人の利用定員となる。

この認定こども園化について、幼保を一体的に運営するというものになり、幼稚園として利用する子どもと保育園として利用する子どもが共存する形となる。令和5年度からは5施設が認定こども園として運営する。

【質疑応答】

会 長：地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策は、国で示した子どもたち支援はどうしていくのかという部分になる。この13事業は、各市町村で行う事業で、館林市はたくさんの事業を展開しており努力があったと拝察し、より豊かにしているように見受けられた。

委 員：この計画は大変だったと思う。こども園ができてきてよいと思うが、幼稚園はお迎えが1時半や2時になり、そうすると保育園の子たちがすごく寂しそうな顔で見てる。そういう子どもの思いがあるので、そういう場合どうなのかなとちょっと素朴な質問である。

委 員：地域子育て支援拠点事業は、長良保育園のこども園化に伴い令和5年度から4か所に減ってしまい、非常に残念だと思う。何か代替の施設で行えないものか、ご検討いただければありがたい。放課後児童クラブが、こども教室との一体型クラブが令和4年度から1か所の計画になっている。これは学童クラブの容積から考えて、とても無理ではないかと思うのだが、ご検討いただきたい。放課後こども教室だが、公民館で行うよ

うだが、全国的に学校の空き教室、校庭等を利用して行っていると思うので、ご検討いただければありがたい。

委員：0, 1, 2歳児は保育園や認定こども園に行っていない子がいると思うが、3, 4, 5歳以上の対象児童でどこにも行ってないお子さんはどの程度いるのか、把握はしているのか。

市：0, 1, 2歳児の小さいお子さんの親御さんは、まだ働いていない等あるので今すぐには出ないが相当数いる。また3, 4, 5歳になると、幼稚園等に就学し始めるので、5歳児になったときは、ほぼ園に通っていない子はいないと認識している。

委員：子どもを守る地域ネットワークで令和3年度の実施状況が、実務者会議で6回、個別ケース検討会議で10回開かれているが、出席メンバーと内容が知りたい。また、個別ケース検討会議の10回は、同じ問題のところの個別ケース会議を10回なのか、内容の違うケースの会議を合計10回になっているのか教えていただけるとありがたい。

市内に1か所病児保育をやっているが、委託事業としてお願いしているのか、それとも別の何か補作があって事業をお願いするのか、お聞きしたいのと、自主的にこの委託事業で行った場合の事業費の設定はどのようにやっているのか。今認定こども園に教育という過程の中で、幼稚園と保育園では教育費と福祉費にわかれているかと思うが、どちらが主体になるのか。予算化されてきたものは将来的に、保育の費用と教育の費用を一体化することによってメリットがあるのか、逆に増えるのか教えていただけるとありがたい。

委員：富士こども園はこども園化しており運営を行っているが、今後も保護者と子どもたちが利用しやすい施設を目指して頑張りたい。

委員：今後、新たな子育てができる環境として、教育と保育の両方の良さを備えている施設において、保護者の皆様が安心して子育てができる場を作っていけたらなと思っている。

委員：放課後児童クラブで、たくさん子どもたちがいて大変だなと思っている。今後どういうふうを増やしていくのかということもあるかもしれないが、廃園になった園とかを活用するような計画があるのかお聞きしたい。ファミリーサポートセンターは、保護者が活用しやすくなるというなと思っている。保護者がぜひ使ってもらえるよう周知してほしい。一時預かりで、小さい子を預けることで、小学校の面談や事業に出られるようになるので活用できたらいいなと思う。

委員：こども園から帰っていく子どもを見送る子どもたちはかわいそうだと思っている。できればオープン型で支援センターをやった方がいいのではないかとと思っている。

委員：保育園の認定こども園が始まっていくが、いろいろな事業で守られている子どもたちに寂しい思いをさせないよう、保育士が支援をしていくことだと思うので身が引き締まる。

委員：南幼稚園がこども園になると決まってるということで、保育園が無くなるとそちらの保育園の利用は何になるのか。現場の保育園幼稚園の先生は、これだけ変わると教科書通りいかないこともあると思うので、試行錯誤しながら子どもたちの笑顔のためにご協力お願いしたい。

委員：お母さん同士で繋がるっていう形がすごく大事だなと思っている。支援センターが一つ減るということ、コロナ渦で予約制でしか支援センターに入れないようなので、何かそこら辺も含めて考えていただけると子どももお母さんも元気に育っていくのかなと感じた。

委員：認定こども園になるということで、子どもたちの人数が少なくなったとはいえ施設としては手狭になってくるのかなと思う。子どもたちのために廃園を有効利用していただきたいと思う。

委員：幼稚園保育園に量を決められているが、4月の時点で決まった人数ということなのか。4月にどこにも属してないと途中入園ができないのか。受け皿はどうなってるのか教えていただきたい。館林市の幼稚園、保育園の量の話は伺えたが質のことがわからないので、どういったことをやっているのか教えていただきたい。

副会長：事細かくすごく詳細にいろいろなことをやっているなど思う。また認定こども園というのは長年の課題だったと思うが、今回取り組みを始めるということで大変評価している。

会長：皆さんからいただいたご意見を、市の方はきちっと受けとめていただいて、皆さんが納得できるような返事を頂戴したい。

(5) 閉会

市：質問についてはしっかり受け止め皆様にお返ししたい。本日の会議で、令和4年度以降の確保方策の見直し、計画の補正など進捗管理を行うことができた。認定こども園化に伴い教育保育施設の利用定員について認定いただき感謝する。